

H19.10.10 設楽ダム魚類検討会 議事概要

日 時：平成19年10月10日(水) 9時30分～12時30分

議事概要：

表 H19.10.10 設楽ダム魚類検討会の議事概要

議事項目	議事内容	委員の主な意見	意見に対する回答
1.魚類検討会の経緯について	・過去の検討経緯について確認した。	・特になし	・特になし
2.ネコギギの保全・移植の考え方について	・豊川水系のネコギギの保全方針と環境保全措置の実施方針について事務局(案)を提示した。	・ネコギギ保全の考え方として、「ネコギギ保全」の全てを「移植」という措置が引き受けているのか、保全目標をどこにおくのか、ということを確認したい。	・事務局：「ネコギギ保全の全体論」と「ダム事業での保全措置」との関係を整理する。
		・ダム運用後のダム下流河川のモニタリング等により、環境への影響が認められることになれば、ネコギギの移植先をダム下流の本川とすることには問題がある。やはり、ダム下流への影響を考えなければならぬという問題意識を持つべきである。	・事務局：ダム下流河川について、ハビタットの解析をベースにして、ダムの供用による影響とその改善方策について検討する。
3.平成19年度の野外実験について	・平成19年度の野外実験の進捗状況を報告し、今後の計画(案)を提示した。	・出水により、淵が埋まったところに親を戻すのは問題がある。また継続飼育の個体の扱いについては、議論が必要である。 ・飼育個体の扱いについては、今後案を提出すること。	・事務局：A 集団以外の親魚の戻し放流は行わなかった。今後、埋まった淵への戻し放流は行わず、近隣の淵への放流を検討する。
		・ペア数が少ないことは懸念事項だが放流することは了承する。 ・環境が変動しているので考慮する必要がある。	・事務局：環境をチェックし、実験淵に稚魚を放流する。今後、別のペアの稚魚による追加放流を予定する。
		・放流前訓練は非常に興味がある。放流前訓練の手順を示して欲しい。	・事務局：水流、隠れ家、餌の条件を変えた放流前訓練を実施する。
		・出水による影響を受けた淵で、物理環境の変化、ネコギギの生息状況の変化をモニタリングすることは重要である。	・事務局：マイクロハビタットの変動と個体群の変動を検討する。環境変化のみられた淵の個体群の回復状況を今後調査する。
4.人工水路実験について	・人工水路実験の進捗状況について報告した。	・活動期のデータをとるなら温度調整が重要であるが、水温管理はできているか。	・事務局：冬季は循環式では水温が下がり過ぎたため、環流式で実施した。
		・これからの時期(秋季)は、夏よりは活動しないだろうが、寒い時期のデータをとるにはよい。 ・本実験はエコアップのためのデータとして利用できる。できれば、周年のデータがあるとなお良い。	・事務局：予備実験は冬季でも比較適水温の高い時期に実施する。 ・事務局：冬季の実験について本実験で考慮する。

<p>5.ネコギギの保全検討に関する公表資料について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの調査でえられた知見を公表する際のガイドライン(案)を提示した。 ・また、設楽ダムを取り組むを公表するパンフレット(案)を提示した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公表の手法としては、調査データを論文にしているいろいろな人が使える形にしたい。 ・パンフレットは一般向けにした形で作成し、各委員に内容を監修して頂く機会を設けること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局：ご要望の内容で整理する。 ・事務局：一般向けパンフレット(案)を作成後、各委員に確認して頂く。
--------------------------------	--	---	---